

<愛教大活性化部門>

現代社会の「リアル。」を見つめる

～今（リアル）を通して、人を知り、社会を知り、未来を拓く～

園田奈央（特別支援・3年）他 学生 11 名

1. 活動概要

私たちは、愛教大生と自立生活センター「アクセル」が共同で活動している団体です。自立生活センター「アクセル」とは、障害当事者による、障害当事者のためのピアサポートグループです。個々の自己選択・決定を大切にしながら、語り合い、学び、社会を変えるために刈谷市を拠点に西三河地域で活動しています。

「障害当事者」として、「学生」としての枠を超えて共に活動することで、授業や限られた時間だけでは知ることの出来ないお互いの「リアル」を知り、広めていくというのが目的です。

愛教生の多くは、将来教育現場で様々な子どもと関わるので、色々な考え方に触れ、考え方の引き出しを増やすことで多様性を受け入れられるようになって欲しいと考えます。また、愛教生だけではなく地域で生活している全ての人がお互いの現状を知ることにより生活しやすい社会を作ることにつながると考えます。

私たちは「リアル。」を通して具体的に以下3つの企画を通して、教員になる上で、またインクルーシブな社会を実現していく上での視野を広げるきっかけとしていくことを目指しています。

1つ目は、映画企画です。映画を通して物事を知り、「もし自分がその場にいたら」「もしその立場だったらどのように関わるのか」等を考えるきっかけとすることを目的にしています。また、映画を見るだけでなく、意見交換する時間を設けることで、社会問題に対する興味・関

心を深め、自分ごととして考える機会としていきます。話し合いを通して新たな視点や考えが増える・広がることを目的にしています。

2つ目は、講演会です。様々なマイノリティを取り巻く環境について、講師をお招きして、経験や感じていること等を聞き、社会の状況を知ることが目的にしています。現状や課題を学んだうえで教育の役割や教育からどのように社会を変えていけるのかを考える、またはそのきっかけにしていきます。

3つ目は、ゴミ拾い企画や運動会企画です。ゴミ拾い企画は、今年度の活動で初めての対面でした。残念ながら、今年度はコロナの影響で予定していた対面での運動会企画が出来ませんでした。次年度こそは開催していけたらと思っています。

2. 実施状況

【令和3年7月11日実施】

映画企画第一弾 方法：オンライン

参加者：15名

映画「ホームランが聞こえた夏」を視聴し、参加者同士のディスカッションを行った。



【令和3年9月19日実施】

講演会第一弾

方法：オンライン

参加者：41名

講師に大橋ノア氏をお招きし、海外と日本のマイノリティを取り巻く環境の違いをテーマとし、開催した。参加者同士のディスカッションを行った。



【令和3年度12月5日実施】

方法：対面

参加者：20名

刈谷駅周辺でゲーム形式のゴミ拾いを行った。



【令和3年10月30日実施】

映画企画第二弾

方法：オンライン

参加者：14名

映画「くちづけ」を視聴し、参加者同士のディスカッションを行った。



【令和3年11月23日実施】

講演会企画第二弾

方法：オンライン

参加者：31名

講師に中谷豊実氏をお招きし、性教育をテーマとし、開催した。参加者同士のディスカッションを行った。



3. 成果

《映画企画》

- ・「映画」ということで障害分野に関わっていない人でも踏み出しやすい企画とすることができた。
- ・複数のメンバーで同時に映画を見て、直後に議論することで、一人で見ていたら気付くことのできなかった視点に気付くことが出来、またその場で障害当事者の意見を聞くことが出来る機会になった。
- ・印象的な場面をメモしながら視聴するように促したことで、具体的なシーンについて議論することが出来た。

《講演会第一弾》

- ・オンライン企画とすることで、アメリカ在住の講師をお招きすることが出来た。貴重な機会をつくることが出来た。
- ・障害当事者や学生だけでなく、様々な立場の人に参加してもらうことで、より多くの意見を聞くことが出来、新しい視点を

ることが出来た。

- ・質問を積極的に行うことが出来た。

《講演会第二弾》

- ・「障害」だけでなく「性教育」について考えることが出来た。

- ・少人数でディスカッションを行ったことで、活発な議論をすることが出来た。

《ゴミ拾い企画》

- ・刈谷駅周辺をきれいにすることが出来た。
- ・障害当事者と同じ活動に取り組み、実際に話をすることでお互いを知ることが出来た。

《企画参加者の声》

- ・とても有意義な時間だった。
 - ・車椅子の方は目線が低いので、早くゴミを見つけることができることが分かった。このことから、「障害があること＝マイナスなこと」ではなく障害があるからこそできることがあるということに気付くことが出来た。
 - ・自分に出来ることを考えるきっかけになった。
 - ・自分の取り組むべきことが見えた。
- 《企画全体を通して》
- ・愛教大生と障害当事者が関わる機会をつくることが出来た。
 - ・学年、学部、学科の偏りがなく参加があり、障害の有無等、立場も違う人の考え方を知ること、新たな価値観に触れることが出来、視野が広がった。
 - ・活発な議論が行われたことで、「自分だったらどうするか」という自分事として考える機会とすることが出来た。
 - ・企画を通して、多様性を感じることができ、共生社会への気付きが得られた。

4. 今後の展望

今年度は新型コロナウイルスの影響により、企画内容に制限があった。その中でもオンラインだからこそいろいろな人とつながることができる実感したため、来年度も様々なツールを活用し、レベルアップした企画を進めていきたい。今年度初めて実施したゴミ拾い企画は大変好評だった。理由として、障害当事者とフランクに

話せる機会となったこと、町をきれいにするという社会的貢献が出来たこと、一緒に活動に取り組めたことが挙げられた。よりお互いを知る機会を作るため、対面の企画を開催したい。

今年度「ミニ運動会」を企画し、準備していたが新型コロナウイルスの影響により中止になってしまった。来年度は、開催したい。

周りには障害当事者との接点が少ないから知らない、考えたことがないという人が多くいる。そこでこの企画を通し、『自分たちからすすんで学び、広めていく。周りの人たちも巻き込んで考える。』というきっかけにしたい。この目標のために、今回の参加者をはじめ、さらに多くの人を巻き込んで活動していきたい。

今年度のチャレンジ・プログラムとしての企画は終了したが、3月に日本福祉大学ヘルパーサークルとの交流会を開催予定である。また、来年度も企画を開催するために、新しいメンバーを募集している。今年度行った形式にとらわれず、活動していきたい。

この企画を通して、地域で生活するすべての人がお互いの現状をしることでより生活しやすい社会を目指していきたい。

5. 決算

予算：354,662 円, 残額：221,987 円

費目	支出額
○ 備品 ・ (支出なし)	0 円
小 計	0 円
○ 消耗品 ・ コーン ・ 袋類 ・ 軍手 ・ 運動会競技用 ・ 段差解消スロープ	17,000 円 527 円 570 円 57,579 円 16,999 円
小 計	92,675 円
○ 旅費 ・ (支出なし)	0 円
小 計	0 円
○ 謝金 ・ 講演第一弾 ・ 講演第二弾	20,000 円 20,000 円
小 計	40,000 円
○ その他 ・ (支出なし)	0 円
小 計	0 円
合 計	132,675 円

6. メンバー

番号	学年	氏名	所属
1	3	園田奈央	特別支援
2	3	井上愛	特別支援
3	3	岩城凜音	特別支援
4	2	松本明華	教育科学
5	2	小澤奈子	特別支援
6	1	山田紋弓	特別支援
7	3	篠原桃子	特別支援
8	3	安室穂	特別支援
9	3	岡沙矢香	特別支援
10	1	村松歆奈	特別支援
11	1	伊藤優吾	特別支援
12	教員	小倉靖範	特別支援